意見の中間とりまとめ（案）について
～委員の意見～

日本小児科学会　別所　委員　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

日本小児科医会　保科　委員　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

日本小児神経学会　神山　先生　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

意見中間とりまとめ(案)について

平成１７年１０月５日
日本小児科学会　別所　委員

1. 1頁
「虐待」は行う方であり、ここで問題になるのは虐待を受けてこころに傷を受けた子どもが問題になるので、「被虐待」とすべきである。
2. 7頁
治療に関して「基本的薬物療法」という治療法の一部を示すごが出てくるが、必ずしも薬物は必要でない場合も多く、その見極め事態が大切であるので、「基本的診療」とし、薬物療法はその一部であることを明確にすべきである。
3. 7頁
(3)イ. 個別教育目標の最初の行に、
・子どもの心身の正常発育・発達の過程を理解している。
を追加。小児科医にとっては当然のことであるが、精神科専門医の研修には特に記しておく必要がある.
4. 9頁
B. 養成のための具体的な方法の1と2が、具体的な方法というにはあまりに抽象的過ぎる. 初期研修のあり方に問題がある、すなわち、小児科も精神科も基本科目ではなく必須科目に過ぎず、短いところでは1ヶ月という研修の中ではどうしようもないということかもしれないが、具体的に必要なことを明記し、初期研修の改善に資することも必要であろう.
5. 9頁
B. 2. 卒後研修に、資格試験とあるが、これは設問を設けるとあることから推して、筆記試験のことを意味しているように思われる. 多くの資格試験は、経験を確認する意味で症例要約や面接を実施しているので、これらすべてを含めて資格試験とすべきである. 従ってここは、例えば、「———資格試験に子どもの心に関する研修の実績を確認できる方策を組み入れる」などとすべきである.
6. 10頁
4. 2)最初の・の括弧内に、現実的な方法の例として、公立精神科病院への併設があげられているが、これと並んで国公立小児病院への併設もありえる選択枝であろう.
7. 12頁
2. 病棟およびその基準の項に、特定機能病院における問題を掲げるべきである. 小児医療については、高度先進医療のみでなく、子どもの生活の場としての機能も重要であり、高度先進医療に重点をおいた規定は、その目的にむしろ反する場合

さえある．特定機能病院においても小児については特別な扱いが必要である．

8. 13 頁

5．標榜科の問題の項に、小児科、精神科とは別に独自の標榜科が必要とあるが、小児の診療に当たっては、再分化につながるような方策は避けるべきである．特に、小児科を医療の中の1分科としてそれに対置するものとして新たな標榜科を設けることは好ましくない．大学においてさえ、小児医療を行う場を小児病院として再編しようという動きにも反する．新たな標榜科を作るならば、例えば、小児診療部をつくり、この中に、小児内科としての小児科（さらにこれは総合小児科、血液小児科、循環器小児科などなどを含む）、小児外科、小児耳鼻科、---、子どもの心の診療科などとすべきである．

9. 14 頁

「心理士」は、現在国家資格化を巡って論議があるところであり、「心理士（師）」とすべきである。

以上

意見中間とりまとめ（案）について

平成１７年１０月３日
日本小児科医会　保科　委員

この度、送られてきた意見中間とりまとめ（案）について、日本小児科医会の立場から意見を述べさせていただく。

1．各学会の到達目標は、あくまでも目標でしかなかったし、研修中に１例でも症例に遭遇する機会はほとんどないのが現状である。
2．子どもの心に関する研修会は、子どもの心の診療に少しでもすそ野を広げようと、日本小児科医会では平成１１年から開催している。
3．“「子どもの心相談医」は、専門医ではないが、皆様の相談には乗りますよ”という意図であり、軽度の場合には自分で対応し、少しでも重症そうなら専門医に送るという見極めの基本を研修することも目的としている。
4．中には、送る場所がないので、自分で心理士と協同して対応しているボランティア的な相談医もいる。それだけ大きな問題と考えられる。
5．しかし、子どもの心の問題に対応するためには、少なくとも１名に最低３０分はかかるので、実際の現場では一般診療が進まなくなる。
6．それでも毎年のように 100 名以上の新しい一般小児科医が、「子どもの心研修会」を受講するとともに再受講する先生もいる。それだけ一般診療現場では、必要性を肌で感じている。

だから日本小児科医会では、臨床現場の意向を受け入れて、既に小児科学会専門医（以前は認定医）である小児科医を対象に研修会を開催している。

このすそ野を広げるという研修会は、東京だけで開催しても駄目で、大阪、札幌、福岡と開催しているが、やはり少し大きな都市でないと会場確保が難しいし、交通の便の問題で参加しにくくなるという意見もある。

今後、この研修会開催を厚生労働省と共催できるかどうかは、この検討会の意向による。

母子保健課からの連絡では、子どもの心の診療医を養成するための関連研修・講習会などの対象規模（対象医師数、対象分野）の拡大の可能性について具体的にということで、日本小児科医会の事業を述べさせていただく。

日本小児科医会として

1．主たる研修は、毎年開催している「子どもの心研修会」
　前期２日、後期２日、計４日間。
　対象医師は、小児科専門（認定）医で
　前期は基礎編で募集人員は２００名。　後期は臨床編で募集人員は４００名。
　これらに１００名増員は可能であろう（開催地区の施設による）。
　対象分野

心の問題に関係する分野なら、特別限定してはいない。

２．関連講習会

１）「思春期の臨床講習会」を毎年１１月に東京で開催している。

思春期の問題、特に臨床的に遭遇する機会の多いものについて講習会を開催。

対象医師は子どもの心相談医としているが、興味のある小児科医も参加可能。

募集人員は２００名。

同時に、市民公開フォーラムも開催している。

２）「カウンセリングの実際」研修会を毎年秋に開催。

カウンセリングの実際について。

募集人員は子どもの心相談医を対象に少人数で開催。

今年度は、東京、大阪、福岡の３か所で開催予定。

以上

意見中間とりまとめ(案)について

平成１７年１０月５日
日本小児神経学会 神山 先生

Ｐ２の１行目に対する資料

小児保健研究 2002 61 593－598
鈴木みゆきら 現代の親子に対する保育者の意識に関する研究
長崎大学教育学部紀要 2000 59 1－16
井口均 保育者が問題にする「気になる子」についての傾向分析
日本体育大学紀要 2002 31 121－138
阿部茂明ら 子どものからだの調査２０００ （添付資料１）

小児神経学会員が多数参加した研修のプログラム（添付資料２）

▼17-2：日本における「子どものからだの調査（実感）」の結果

「最近増えている」という"実感"ワースト・10

保育所

(%)

1979年		1984年		1990年		1995年		2000年	
1. むし歯	24.2	1. むし歯	45.8	1. アレルギー	79.9	1. アレルギー	87.5	1. すぐ「疲れた」という	76.6
2. 背中ぐにゃ	11.3	2. 背中ぐにゃ	38.4	2. 皮膚がカサカサ	76.4	2. 皮膚がカサカサ	81.3	2. アレルギー	76.0
3. すぐ「疲れた」という	10.5	3. すぐに「疲れた」という	35.1	3. 背中ぐにゃ	67.7	3. すぐ「疲れた」という	76.6	3. 皮膚がカサカサ	73.4
4. 朝からあくび	8.1	4. アレルギー	30.3	4. すぐ「疲れた」という	63.3	4. そしゃく力が弱い	71.9	4. 背中ぐにゃ	72.7
5. 指吸い	7.2	5. 転んで手が出ない	24.2	5. そしゃく力が弱い	59.4	5. 背中ぐにゃ	70.3	5. そしゃく力が弱い	64.3
6. 転んで手が出ない	7.0	6. 皮膚がカサカサ	23.1	6. ぜんそく	53.7	6. つまずいてよく転ぶ	54.7	6. ぜんそく	61.0
7. アレルギー	5.4	7. 朝からあくび	21.8	7. つまずいてよく転ぶ	52.4	6. ぜんそく	54.7	7. 保育中、じっとしていない	60.4
8. つまずいてよく転ぶ	4.9	8. 鼻血がでやすい	20.0	8. 転んで手が出ない	48.0	8. すぐ疲れて歩けない	51.6	8. つまずいてよく転ぶ	58.4
9. 保育中目がトロン	4.8	9. 指吸い	18.8	9. 指吸い	43.7	8. 朝からあくび	51.6	9. 朝からあくび	53.2
10. 鼻血	4.6	10. そしゃく力が弱く食物を飲み込む	18.0	10. 朝からあくび	43.2	10. 転んで手が出ない	48.4	9. すぐ疲れて歩けない	53.2

幼稚園

(%)

1990年		1995年		2000年	
1. アレルギー	72.3	1. アレルギー	74.8	1. アレルギー	82.7
2. 皮膚がカサカサ	68.0	2. すぐ「疲れた」という	73.9	2. すぐ「疲れた」という	76.5
3. すぐ「疲れた」という	57.8	3. 皮膚がカサカサ	68.7	3. 皮膚がカサカサ	69.1
4. ぜんそく	54.9	4. 背中ぐにゃ	56.5	4. ぜんそく	67.3
5. 背中ぐにゃ	53.4	5. ぜんそく	53.0	5. 背中ぐにゃ	66.0
6. 腹痛・頭痛を訴える	41.7	6. つまずいてよく転ぶ	52.2	6. 保育中、じっとしていない	59.3
7. 転んで手が出ない	41.3	7. 朝からあくび	47.0	7. 転んで手が出ない	53.7
7. つまずいてよく転ぶ	41.3	7. すぐ疲れて歩けない	47.0	8. つまずいてよく転ぶ	49.4
9. 朝からあくび	40.3	9. 転んで手が出ない	43.5	9. 腹痛・頭痛を訴える	48.8
10. 棒登りで足うらを使えない	39.3	10. 腹痛・頭痛を訴える	41.7	10. 朝からあくび	47.5
		10. そしゃく力が弱い	41.7		

小学校

(%)

1978年		1984年		1990年		1995年		2000年	
1. 背中ぐにゃ	44.0	1. アレルギー	77.0	1. アレルギー	87.3	1. アレルギー	88.0	1. アレルギー	82.2
2. 朝からあくび	31.0	2. 背中ぐにゃ	75.7	2. 皮膚がカサカサ	72.6	2. すぐ「疲れた」という	77.6	2. すぐ「疲れた」という	79.4
3. アレルギー	26.0	3. すぐ「疲れた」という	73.3	3. すぐ「疲れた」という	71.6	3. 視力が低い	76.6	3. 授業中、じっとしていない	77.5
4. 背すじがおかしい	23.0	4. 朝からあくび	62.4	4. 歯ならびが悪い	69.9	4. 皮膚がカサカサ	71.4	4. 背中ぐにゃ	74.5
5. 朝礼でバタン	22.0	5. 転んで手が出ない	59.9	5. 視力が低い	68.9	5. 歯ならびが悪い	70.8	5. 歯ならびが悪い	73.2
6. 雑巾がしぼれない	20.0	6. 腹痛・頭痛を訴える	57.9	6. 背中ぐにゃ	68.7	6. 背中ぐにゃ	69.3	6. 視力が低い	71.7
6. 転んで手が出ない	20.0	7. ボールが目に当たる	56.2	7. 腹痛・頭痛を訴える	65.5	7. 腹痛・頭痛を訴える	66.7	7. 皮膚がカサカサ	67.4
8. なんでもないとき骨折	19.0	8. 雑巾がしぼれない	55.1	8. 転んで手が出ない	62.3	8. 症状説明できない	63.5	8. ぜんそく	62.7
8. 腹のでっぱり	19.0	9. ぜんそく	53.8	9. 症状説明できない	61.9	9. 平熱36度未満	60.4	9. 症状説明できない	61.9
10. 懸垂ゼロ	18.0	10. 背すじがおかしい	53.6	10. ちょっとしたことで骨折	58.4	10. 転んで手が出ない	55.7	10. 平熱36度未満	60.9
		10. 症状説明できない	53.6						

2.　平成17年度国立精神・神経センター精神保健研究所

第48回医学課程研修プログラム

課程主任　知的障害部　加我牧子
課程副主任　知的障害部　稲垣真澄
課程副主任　知的障害部　軍司敦子

2005年2月12日現在

第 1 日 目　平成17年7月6日(水)

開　会（10:00～ ）　加我牧子
開講式・所長挨拶　国立精神・神経センター精神保健研究所所長　上田 茂

1.　発達障害者支援法の意義と実際(10:05～11:05)　厚生労働省 大塚 晃
司 会　加我牧子

2. 自閉症児の支援の実際について(11:10～12:10)　トモニ療育センター 河島淳子
司 会　加我牧子

昼食休憩

2.　自閉性障害の診断と治療(13:00～14:30)　鳴門教育大学学校教育学部障害児教育講座 橋本俊顕
司 会　稲垣真澄

3.　Asperger 症候群の診断と治療(14:40～15:40)　東京都梅ヶ丘病院 市川宏伸
司 会 齊藤万比古

5. TEACCH の考え方と実際　(15:50～16:50)　おしまコロニー 高橋和俊
司 会 軍司敦子

意見交換会・懇親会　(17:15～19:00)

第 2 日 目　平成17年7月7日(木)

6. AD/HD の診断と治療(9:30～11:00)　国立精神・神経センター精神保健研究所児童部　齊藤万比古
司 会 北 道子

7. ペアレントトレーニングの考え方と実際(11:10～12:10)

国立精神・神経センター精神保健研究所児童部　北　道子
司　会　齊藤万比古

昼食・休憩

8. 発達障害と分子遺伝学(13:00～14:00)　鳥取大学医学部脳神経小児科　大野耕策
司　会　稲垣真澄

9. 学習障害の診断と治療(14:10～15:40)　鳥取大学教育地域学部　小枝達也
司　会　加我牧子

10. 学習障害の教育指導の実際(15:50～16:50)　東京学芸大学特別支援科学講座　小池敏英
司　会　軍司敦子

第 3 日 目　平成17年7月8日(金)

11. 発達障害児・者の支援(1) (9:30～10:30)
国立精神・神経センター精神保健研究所知的障害部　稲垣真澄
司　会　軍司敦子

12 発達障害児・者の支援(2) (10:35～11:35)　仲町台発達障害センター　小川浩
司　会　稲垣真澄

13. 発達障害児・者の支援(3) (11:40～12:40)　浜松市発達医療総合センター　杉江秀夫
司　会　加我牧子

閉講式・所長挨拶(12:45)　国立精神・神経センター精神保健研究所　上田茂
閉会　加我牧子